

令和6年度 久留米市社会福祉協議会事業報告

主な取組みと決算状況をお知らせします。



計画・報告

地域福祉活動の推進支援

①「くるめ支え合うプラン」の地域展開 関連6ページ

各校区に対して、会議などを活用し、校区福祉活動計画の策定を働きかけました。策定後は計画に基づき具体的な取組みを通じて地域福祉活動を進めています。



住民と地域を語るワークショップの様子

②見守りや支援の対象者を広げる

校区社会福祉協議会やふれあいの会へ、活動充実や意識向上のための支援・研修を行いました。高齢者だけでなく、こども、生活困窮者など、何らかの生きづらさを抱える人・世帯への取組みの検討を働きかけました。

③コミュニティ組織との新たなネットワーク化

全校区で展開する支え合い推進会議について、多様な主体との連携を図るため、推進委員・社会福祉法人・企業を対象とした研修会を実施しました。生活支援体制整備事業の記事をフリーペーパー「SECOND」に掲載しました。

④興味や関心事を軸として集う市民グループや経済団体等との連携

「ぷらっと、荘島」を拠点とした多世代交流の場づくり、みんくるなどの中間支援組織との関係構築、企業とは寄付やフードボックス設置、食料支援活動団体とは食料配布などを通じた連携を行いました。

⑤地域福祉を担う人材の育成 関連4ページ

新任校区社協役員の基礎セミナーや、子ども食堂の活動者養成のための講座などを開催しました。



中高生ボランティア養成講座の様子

ボランティアフェスティバルでは「こどもの食支援」をテーマに、市民への普及啓発と団体同士の交流を図りました。

企業や事業所、小・中学校に対して、災害や食料支援などを新たなテーマとした福祉教育も展開しました。

相談・支援

①組織内の情報を支援活動に生かす

特例貸付の借受人に対し、アンケート調査や電話、訪問、相談支援を行い、福祉課題を抱えた世帯には、課を超えて解決に向けた支援を行いました。

令和5年7月の豪雨災害を契機につながった困りごとを抱えた世帯には、引き続き住居確保などの支援を行いました。

②継続的で柔軟な対応を行っていく 関連6ページ

「複合・狭間」の課題解決に向け、関係機関、地域住民、当事者が協議する場を設けました。自ら支援を求めることができない相談者にアプローチし、生きづらさのある人がつながる場づくりに努めました。

③地域へのきめ細かな働きかけ

担当コーディネーターが、各校区の住民同士の話し合いの場に参加し、支え合う関係づくりの促進を行いました。要支援者が地域で安心して暮らせ

るよう、地域と協力して個別支援を行いました。

④要支援者の情報を速やかに把握する

地域住民を対象とし、近隣世帯の困りごとに気づくための学習会を校区社協とともに実施しました。

補助金や団体からの寄付を活用したお米の配布会と相談会を同時開催し、困りごとを抱える子育て世帯の把握に努めました。



お米の配布会と相談会の様子

⑤人生あんしん事業の開始

その人らしく人生を終えられるよう、見守りや死後事務手続きを行う事業を開始し、専門家の指導や助言をいただきながら実施しました。